

「全鍍連」 2020年7月号 若者から一言

東北・北海道表面処理工業組合

北青会 会長 椎谷 学 (株)シヤマツキ 代表取締役)

「若き日の貴重な時間」



東北・北海道表面処理工業組合青年部『北青会』の会長を務めさせていただいております

福島県相馬市 株式会社 シヤマツキ 代表取締役 椎谷と申します。

この度『若者から一言』として執筆を依頼されましたが、若者と呼ばれていいのか…現在46歳でございます。

子供の頃は40歳のおじさんとなればヨボヨボの様なイメージしかなかったのですが、実際自分がその域に入ると、まだまだなんでもやれそうな気がしています。もう少し心が大人になるとゴルフのスコアも良くなると思うのですが、そこだけは若いかもしれません。

そんな私ですが、幼少期より“野球”を愛し、プレーをしてきました。

3人いる息子達も野球の道に引っ張り込み、鬼コーチ（私）から怒られながら頑張っていました。

41歳から始めた壮年野球は地元の友人が立ち上げたチームで40歳以上の条件下で参加します。土木現場の監督をするエースや斎場で司会を務める4番バッターなど個性豊かなチームです。地区で6チーム・その上の県大会は8チームと小規模な大会ではありますが、毎年参加しており2018年には県大会優勝を果たし、東日本大会にも出場いたしました。中学・高校時代に同地区で戦っていたメンバーで構成されたチームは、気持ちだけ永遠の野球小僧、実際はダイヤモンドを一周すると「もう無理～」と息を切らせるおじさんの集まりです。

対戦相手も同年代ですから、お互い体に気を付けてプレーすることが鉄則です。しかし、そこは気持ちだけでも野球小僧…つい本気になり、足を引きずりながら退場する選手がたまにいます。若き日に得られた友とプレーする楽しさや乗り越えた苦勞がとても貴重な経験であり、仕事の面でも役に立っているのだと改めて身に染みております。

さて、そんな我々の野球も現在のコロナウイルス蔓延により今年度は活動を断念せざるを得ない状況となりました。46歳の私にとっても毎年体と相談しながらのプレーでしたので、今期活動できないのはとても残念でなりません。

ちょっとドライな高校1年の三男は野球ができない事があまり悔しくないみたいで、「しょうがないよ…」とスマホをいじる姿は野球小僧の私としては違う意味で残念でした。（涙）そして本日（5月20日）今年の甲子園大会の中止が正式に発表されました。

高校野球に限らずですが、積み重ねたものが発揮できない、夢見ていた目標を失うということは何とも悲しく思え、ニュースを聞きとても残念な気持ちになりました。貴重な時間を逃してしまった今どきのドライな若者たちが将来のビジョンをどの様に描いているのか…。様々な面でコロナウイルスでの損失は大きいと思います。

日本国内も出口が未だ見えてこない現況、人の気持ちが沈みこむ事は今後の経済にも影響を及ぼし、雇用の維持なども難しくなってくるのかもしれません。また、景況は長期化も考えられます。心配ごとは尽きませんが、また球場で（もしくはゴルフコースで）楽しくプレーできる日を楽しみにして粛々と、この苦境を乗り越えていきたいと思っております。

又、微力ながら社会貢献ができる会社にするべく、尽力していきたいと思っております。